



## 大阪部会(第73)回・東京部会(第122回)合同部会報告

日時:	2021年2月20日(土) 15:00 - 17:00
場所:	web上の会議
参加者:	29名

### 【内容要旨】

1 経済教室に関する報告が、鈴木深氏、岡部ちはる氏(東京証券取引所)からあった。

①岡部氏からは、昨年末東京証券取引所からオンラインで行われた「冬休み経済セミナー」の報告があった。これは今夏に予定されている「夏休み経済教室」のひな形になるものとして、参加者、属性、視聴時間などの分析報告があった。

②鈴木氏からは、「夏休み先生のための経済教室」に関しての概容と日程候補の説明があり、以下のような概容で取組みを進めることになった。

- ・形式はオンラインでの実施。募集方法などはこれまでの方式に準ずる。
- ・日程は、8月12日(木)高校向けプログラム、13日(金)中学校向けプログラムを予定。
- ・内容は、今後詰めてゆく。従前と異なり、一日2コマを基準として、午後の時間帯に配信するかたちでの準備を行う。

2 丹松美代志先生(大阪学びの会代表)から「評価について」の報告があった。

- ・国立教育政策研究所の資料をもとにした報告で、同研究所が発行している3冊の冊子をもとに、新学習指導要領で求められている評価、特に、そのなかの「学びに向かう力、人間性等」に関する取組み方が提起された。
- ・丹松先生は、「学びに向かう力」は、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、② 観点別評価や評定にはなじまない個人内評価を通じて見取る部分に分かれるが、今回の報告では①の部分に関して行うとされた。
- ・評価の観点に関して、生徒が主体的に取り組んでいかいかに評価するか、また、具体的にどのような形式で評価するかが紹介されたが、そのなかでは、単元として評価をつくり、規準をつくり、それをもとにシラバスを作成、観点別に評価するというながれが求められるとまとめられた。
- ・「学びに向かう力、人間性等」の内実に「どのように社会・世界とかわり、よりよい人生を送るか」という目標の評価には、日々の授業が今日的課題に迫れたかを評価することが大切であり、そのための方法として、パフォーマンス評価、ルーブリック、ポートフォリオ評価などがあることを紹介された。
- ・特に、評価に関しては複雑化しても、形式化しても問題であり、現場でできるような評価をどのように工夫するか、それがカリキュラムマネジメントと並んでの課題であるとの提起があった。
- ・評価に関するすぐれた実践例として、咲くやこの花中学の川村先生の実践が紹介された。(川村実践は2019年の「夏休み経済教室」で発表済み)
- ・質疑では、川村実践の指導の方法や、それを高校につなげるにはどうするか、大学入試との関連が問われ、丹松先生からは、一人ずつ個別に関わって指導する川村先生の実践が他教科とのコラボ、外部との連携とひろがり、生徒のなかでもパフォーマンスの良さからレポート内容の良さを評価するなど、一人の動きが組織化さ



れつつあることが紹介された。

- ・大学入試に関しては、面接時に高校までの取組みが少し反映されるくらいで現状の知識を問うかたちは変化していないことや、それではダメなので共通テストのような形で大学入試が変わることで高校までの授業スタイルが変わることが期待されていることが、参加者からコメントされた。
- ・ほかに、評価と正面から取り組むことで自分の授業が変化しているという高校からの発言、パフォーマンス評価を前からやっている事例(テストで意見論述させる)の紹介、高校入試にあわせて観点別評価を定期テストなどで明示することが形式化されてしまっている現状の報告、パフォーマンス評価をしてもそれに応えられない生徒へ丁重に対応することが授業全体の質の維持につながったという報告が、参加者からそれぞれあった。

3 河原和之先生(立命館大学等)から、「中学生に経済概念を教えるワークシート」～希少性、機会費用、市場、競争など～の報告がおこなわれた。

- ・報告されたテーマは次の5つである。

- ①機会費用(エクスプレスチケット)
- ②市場、価格(エベレストの入山料金)
- ③競争(競争はいけないか)
- ④貨幣(自作マネーはだれも受取らない)
- ⑤公共財、財政(110番に電話したら)

- ・これは、深い学び、対話的な学び、学びに向かう人間性を目指すというが、現場でホントにできるのか?という疑問から、それが可能になるワークシート教材を提示することをねらいとしたものとのことである。
- ・教材は、いずれも、導入で取り組みやすいネタ、クイズ、ロールプレイなどを入れ、応用では概念を整理してそれが生活の中でどう生きているかを探らせ、活用として社会問題に挑戦させるというスタイルで構成されている。
- ・質疑では、取り上げられている事例で、中学生には実感がわからないものがあるとの指摘があり、検討するとの回答があった。また、市場の学習では価格で調整されるのではない双方独占の事例などがとりあげられていて、それらを含め事例に関して経済学者からのアドバイス、チェックを受けると良いとの示唆があった。

4 大塚雅之先生(大阪府立三国丘高等学校)より「課題解決策を考えさせる2つの授業実践」の報告があった。

#### ① 金融に関する実践

- ・高等学校の金融はマクロの観点で扱うことが求められているが、18歳成人を踏まえ、新科目「公共」では、パーソナルファイナンスの部分を見逃すことはできない。その場合、方策案は二つあり、一つは、家庭科などの他教科との連携を強めることか、もう一つは、個人の問題と社会の問題との結びつきを意識した内容としていくことが考えられるとして、今回はそのなかの后者の事例が紹介された。
- ・対象は、高校3年生「政治・経済」の最後の授業である。
- ・冒頭に3億円が当たったら何に使うかを話し合わせ、そのうえでデータ(家計の金融資産の保有目的の時系列変化)を読み取り、社会の変化や貯蓄の意味を考えさせる。
- ・合理的な貯蓄行動と非合理的な人間を前提とする「行動経済学」の知見から貯蓄のしかたを考えさせる。素材は大竹文雄先生のエッセイである。そのなかでナッジの事例も紹介した。
- ・行動経済学考え方(デフォルト、社会規範、コミットメント、損失の強調)を応用して、社会の問題、身近な



問題解決策を考えさせる、という手順である。

- ・生徒は、問題として健康、人種差別、スマホ依存症などをとりあげて解決策を考えていたが、デフォルトはどの分野で使えるかなどにしぼって、取り組みやすい形にした方がよかったかもしれないとの反省が報告された。

## ②プライバシー権と経済の授業

- ・対象は、高校2年生「現代社会」、新しい人権の箇所である。
- ・3次配当で、第1次は、プライバシーに関する教科書の記述の確認、第2次は各国のプライバシー政策、第3次は、プライバシーVS利便性を考えるという構成である。
- ・教科書の記述が、生徒の生活実態と乖離していること、「さようならプライバシー」と言われるくらい、若い人たちがプライバシーに関心を持っていないことから構想したものである。
- ・第3次では、大手IT企業のサービス利用のメリットとデメリットを考察させ、プライバシーの保護と情報活用による利便性の両立が難しいことを理解し、そのうえで、課題について解決策を議論、考察、構想させる。という構成である。
- ・具体的事例として、GoogleやAmazonがなぜ無料なのか、自分の情報を取られていることを自覚しているかの問いからはじめて、それらのIT企業がなぜ独占化するのか、そのメリットと問題点を整理した。それだけでは、生徒にインパクトがないので、香港のデモでの情報収集やコロナ対応で導入されたCOCOAなどの事例を出して、個人活用の活用による利便性とプライバシーの保護を両立させるにはどうしたらよいかを考えさせた。
- ・生徒は、それなりの回答をしてきたが、まだ不十分なところもあり、知識がないと解決策は浮かばないこと、解決策を考えるには時間がかかることなど、応用まで進むための課題が浮かび上がったとの報告であった。
- ・質疑、討論は、②のプライバシー問題に集中した。生徒の現状はどうなっているのかという質問には、生徒はプライバシーに関して怖がっていない現状、SNSの原理について全く知らないでやっている実態が報告された。また、具体的事例では監視カメラのケース、マイナンバーカードのケース、コロナ対応の健康調査入力などがあげられた。GAFaのような民間による情報プライバシー問題と国家による情報プライバシー問題の区別、関係なども整理して授業化することも必要との意見もでた。
- ・篠原代表からは、教科書の記述は現代の課題につながっていない部分が多く、例えば、GAFaのような独占企業に対する独禁法の適用問題など、今の教科書の独禁法の記述では教えることができない。情報で言えば、AIと情報が集中した時にどんなメリットとデメリットがあるかエコノミストが整理して、見取り図を作るようなことができれば現場の先生は教えやすくなるはずで、それがネットワークの役割になるのではという示唆があった。

(記録と文責:新井)

<input type="checkbox"/> テスト問題 (新テストなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	<input type="checkbox"/> 新聞教材(NIE)
--	--	--	---	------------------------------------

次回開催予定: 4月24日(土) 15時00分~17時00分

東京・大阪合同でweb開催

議題 教材の提案とその検討